

## 《展示品目録》

※No.は報告書（上入道古窯—大府市共和町上入道地内における工場建設に伴う発掘調査報告—）に準拠する。

No.	遺物名称	詳細
4	山茶碗	完形。変形しているため、口縁部は正円のかたちをしていない。
11	山茶碗	高台裏面に靱殻痕や、木の葉痕、藁状圧痕が認められる。
41	山茶碗	変形するため口縁部は正円をとらない。底部裏面に付着物、見込部に別個体の高台の一部が融着している。
43	山茶碗	底部裏面に焼成前につけられた「大」の文字が線刻されている。
47	山茶碗	4枚重ね焼きされている（そのうち2枚は破片が付着する）。変形するため口縁部は正円をとらない。2枚目の高台はナデ付けが不十分で粘土の盛り上がりが認められる。3枚目の上部には自然釉が付着。
48	山茶碗	3枚重ね焼きされている。3枚目の上部に自然釉が付着している。
222	片口碗	自然釉の付着、内面に付着物が認められる。注口部が残存する。
241	短頸壺	自然釉の付着が認められる。
242	短頸壺	底部の一部。自然釉の付着が認められる。
243	片口鉢	底部の一部。自然釉の付着が認められる。
244	焼台	高台痕が認められ、窯壁側が不調整。
245	焼台	高台痕が認められ、窯壁側が不調整。
253	焼台	高台痕が認められ、窯壁側が不調整。
255	焼台	高台痕、木葉痕が認められる。窯壁接地面が不調整である。
256	焼台	高台痕が認められる。高台の痕跡が2台分である可能性がある。窯壁接地面が不調整。